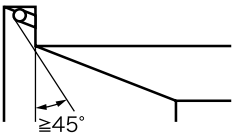
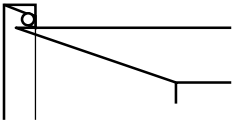
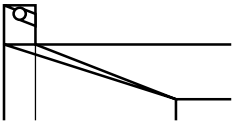
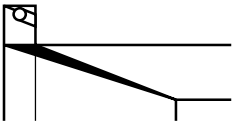
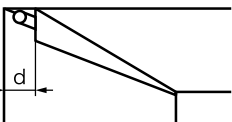
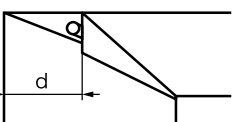


3.9 建築化照明

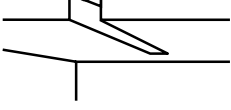
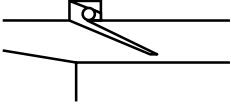
3-93

建築化照明とは、「光源を天井や壁などに組み込み、建築構造と一体化させた照明方式」をいいます。次にそれぞれの照明方式の特徴を示します。

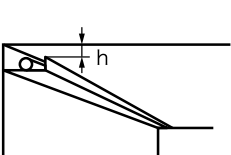
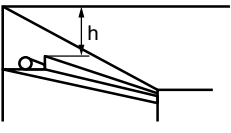
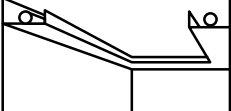
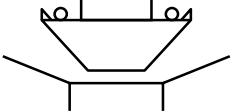
■ コーニス照明

図	特徴
	コーニス(下面開放) ●壁が明るくなり、広がり感が得られる。 ●カーテン・ブラインド照明によく用いられる手法である。 ●ランプが視野に入らないためには、遮光角が45°以上必要である。
	コーニス(ランプ遮光) ●壁が明るくなり、広がり感が得られる。 ●通路などでコーニスに平行に見る場合に、ランプを見せないための手法である。 ●施工が難しいという欠点がある。
	コーニス(下面拡散ガラス) ●壁が明るくなり、広がり感が得られる。 ●コーナー型光天井とよく似た手法となるが、コーニスの場合は幅が狭く線形が強調される。 ●天井と壁の境界部分が目立ったものとなる。
	コーニス(下面ルーバ) ●壁が明るくなり、広がり感が得られる。 ●開放形や拡散ガラス形よりは壁の下方まで明るくなる。 ●エレベータホールや通路などによく用いられる。
	コーニス(凹・dが小さい場合) ●カーテン・ブラインド照明によく用いられる手法である。 ●コーニスを天井内に納められない場合に用いられやすい。 ●天井が暗く感じられやすい。
	コーニス(凸・dが大きい場合) ●壁廻りだけが明るくなり、その部分が強調される。 ●カウンターや店舗の棚の照明としてよく用いられる。 ●広がり感が得られる。

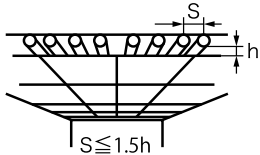
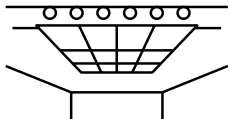
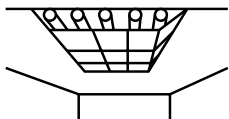
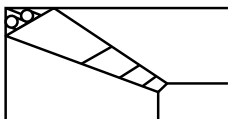
■ トロファ照明

図	特徴
	トロファ ●アーチ形天井などとともによく用いられ、天井空間に明暗の変化が得られる。 ●ランプが直接見えないように視線方向に注意する。ランプ遮光角は45°以上必要である。
	トロファ(ランプ遮光) ●ランプが直接見えないようにする手法である(無方向性)。 ●空間に変化を与えたり、区分したい場合に用いられる。 ●施工が難しいという欠点がある。

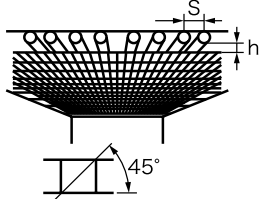
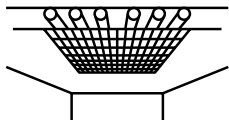
■ コーブ照明

図	特徴
	コーブ(hが小さい場合) ●やわらかい光が空間全体に得られ、影の少ない環境となる。 ●光の帯が天井面に生じ、空間に変化を与える。 ●通路などに用いれば誘導効果上がる。
	コーブ(hが大きい場合) ●影のないやわらかい環境が得られ、店舗などのベース照明として用いられる。 ●天井面が比較的一様に照明され、天井を高く感じさせる。
	コーブ(上り天井) ●シャンデリアと併用されることの多い手法である。 ●天井を高く感じさせ、シャンデリアなどの輝きも適度なものとなる。
	コーブ(下り天井) ●広い空間を視覚的に区分し、空間に変化を与える。 ●ダウンライトなど直接照明によって生じる陰影を和らげる。 ●デパート、ホテルのロビーなどに用いられる。

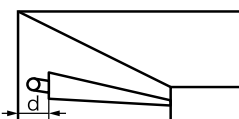
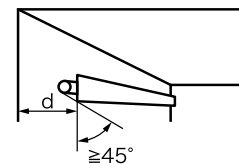
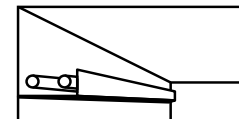
■ 光天井

図	特徴
	<p>光天井(全体的)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●曇天時の屋外の雰囲気、影が少ないやわらかい光が得られるが、陰気な感じにもなりやすい。</li><li>●<math>S \leq 1.5 \cdot h</math>でほぼ様な輝きの光天井が得られる。</li><li>●アクリル系は防災面積の制限有り。</li></ul>
	<p>光天井(部分的)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●天窓がある感じで、明るく軽快な雰囲気が得やすい。</li><li>●グレアレスダウンライトと併用されることが多く、単調になりがちな天井に変化を与える。</li><li>●店舗によく用いられる。</li></ul>
	<p>光天井(凸・部分的)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●天井面が明るくなるので、広く・高く感じられる。</li><li>●店舗では絵や模様入ガラスが用いられることもある。</li><li>●光天井は汚れや虫などが目立ちやすく、保守方法が課題である。</li></ul>
	<p>コーナー型光天井</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●適度な陰影(立体感)が得られとても感じがよい。</li><li>●グレアレスダウンライトと併用されることが多い。天井・壁が明るくなり、高く感じられる。</li><li>●通路などで誘導効果がある。</li></ul>

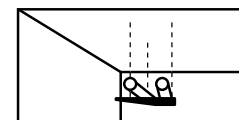
■ ルーバ照明

図	特徴
	<p>ルーバ天井(全体的)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●光天井と同様だが、光の拡散性がやや弱く、壁が暗くなる。</li><li>●<math>S \leq 1.5 \cdot h</math>でほぼ様な輝きになるが、ランプ長軸方向の光の模様は消せない。</li><li>●アクリル系は防災面積の制限有り。</li></ul>
	<p>ルーバ天井(部分的)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●光天井と同様だが、光の拡散性がやや弱く、壁が暗くなる。</li><li>●玄関ホールなどによく用いられ、大メッシュが多くなった。</li><li>●ランプ交換・ルーバの清掃などが課題である。</li></ul>

■ バランス照明

図	特徴
	<p>バランス(dが小さい場合)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●壁に変化を与えるとともに広がり感が得られる。</li><li>●バランスの位置に応じ、ランプ遮光角は上側又は下側に45°以上が必要である。</li><li>●リビングや通路に用いられる。</li></ul>
	<p>バランス(dが大きい場合)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●壁廻りが明るくなり、空間を広く感じさせる。</li><li>●間接光が陰影を和らげるとともに、天井を高く感じさせる。</li><li>●カウンターや店舗の棚の照明によく用いられる。</li></ul>
	<p>バランス(ルーバ付)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●壁廻りが明るくなり、空間を広く感じさせる。</li><li>●カウンターや店舗の棚の照明の、グレードの高い手法である。</li><li>●ランプが直接見えないようにする手法である。</li></ul>

■ 吊・半間接

図	特徴
	<p>吊・半間接(ルーバ付)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●カウンターや店舗のショーケースの照明としてよく用いられ、空間に境界を創る。</li><li>●間接光が陰影を和らげるとともに、天井を高く感じさせる。</li></ul>